

まちづくりの将来像（ビジョン）の検討に向けて

1 ビジョン検討の視点

次期総合計画では、今後 10 年間のまちづくりの方向性を市民と共有するため、「留萌市が目指す将来像」を分かりやすく示す必要があります。

ビジョンの検討にあたっては、次の 3 点を視点として整理しています。

視点	内容
① 分かりやすさ	市民に伝わり、心に残る表現であること
② 留萌らしさ	10 年後にも古びず、留萌の個性が感じられること
③ 施策との接続	基本目標・施策の展開につながる内容であること

2 市民アンケートから見える将来像

(1) 将来の留萌市のイメージ（上位 5 項目）

市民アンケートにおいて、将来の留萌市のイメージとして上位に挙げられた項目は、次のとおりです。

順位	将来のまちのイメージ	回答数 (割合)	読み取れる方向性
1	仕事や働く場があり、さまざまな産業活動が行われるまち	204 人 (44.1%)	産業振興、雇用、地域経済の活性化
2	医療体制や健康づくりが充実したまち	182 人 (39.3%)	医療、保健、健康づくり、安心の基盤
3	便利で快適に暮らせるまち	181 人 (39.1%)	生活利便、交通、買い物、除雪、住環境
4	高齢者や障がい者など、すべての人が安心して暮らせるまち	146 人 (31.5%)	福祉、地域共生、支え合い
5	子どもたちや若者が希望を持ち、活力にあふれるまち	135 人 (29.2%)	子育て、教育、若者定着、挑戦

(「次期留萌市総合計画策定に向けたまちづくり市民アンケート分析結果」P 6 (市民が望む将来のまちのイメージ))

(2) まちづくりで重視すべきこと（上位4項目）

順位	重視すべきこと	割合
1	医療・福祉などの生活基盤の充実	48.4%
2	雇用の場の確保	41.3%
3	生活利便性の向上	33.5%
4	若者の定着	32.2%

（「次期留萌市総合計画策定に向けたまちづくり市民アンケート分析結果」P 5
（人口減少対策として力を入れるべき取組））

(3) 施策の重要度と満足度の「乖離度分析」（上位5項目）
最優先改善領域（重要だが満足度が低い）

分野	満足度乖離	重要度乖離	評価
道路の除排雪状況	-0.58	+0.57	最優先改善
医療体制の充実	-0.69	+0.53	最優先改善
関係人口・移住定住の推進	-0.55	+0.29	最優先改善
公共交通の充実	-0.50	+0.21	最優先改善
高齢者の生活のしやすさ	-0.34	+0.21	最優先改善

（「次期留萌市総合計画策定に向けたまちづくり市民アンケート分析結果」P 3
（施策の重要度と満足度の「乖離度分析」））

(4) 市民の愛着と現実のギャップ

① 居留意向

区分	割合
ずっと住み続けたい、できるなら住み続けたい	53.1%
転出意向 （市外へ移りたい・どちらかといえば市外へ移りたい）	33.7%

② 転出を検討する理由（上位3項目）

順位	理由	割合
1	買い物に不便	53.8%
2	保健・医療体制が充実していない	52.6%
3	家賃や地代が高い	23.7%
3	公共施設が整っていない	23.7%

（「次期留萌市総合計画策定に向けたまちづくり市民アンケート分析結果」P 2
（調査結果要点））

(5) アンケート結果からの示唆

市民が望む将来像は、次のような複合的な姿であると考えられます。

要素	根拠となる回答
働く場があり、地域経済に活力があること	将来像 1 位 (44.1%) 重視すべきこと 2 位 (41.3%)
医療・健康が充実し、安心して暮らせること	将来像 2 位 (39.3%) 重視すべきこと 1 位 (48.4%)
日常生活が便利で快適であること	将来像 3 位 (39.1%) 重視すべきこと 3 位 (33.5%)
すべての人が支え合い、安心して暮らせること	将来像 4 位 (31.5%)
子どもや若者が将来に希望を持てること	将来像 5 位 (29.2%) 重視すべきこと 4 位 (32.2%)

◆ 注目される点

「将来像」で望まれた「医療」「生活利便」は、同時に「転出を検討する理由」の上位 2 項目でもあります。

分析結果では、市民の意識として「暮らしの基盤への強い関心」が示されているとされています。

市民の半数以上が「住み続けたい」と回答している一方で、3 人に 1 人が転出を検討している状況もあわせて考えると、暮らしの基盤に関わる分野が、将来像の検討において重要な論点となるものと考えられます。

◆ 市民会議での議論との共通点

第 1 回市民会議での意見交換から、以下のような市民の想いが抽出されています。

- ・「一度出ても帰ってきたくなる留萌」を実現したい
- ・「住民同士のコミュニティの近さ」を大切にしたい
- ・「教育から街の未来を考える」ことが重要
- ・「大人がイキイキしている姿を見せる」ことで、次世代に希望を伝えたい

これらの市民会議での議論は、アンケート結果の「暮らしの基盤強化」と「若者定着」という課題認識と一致しており、次期総合計画のビジョン検討において、市民のニーズが明確に示されていることを示しています。

◆ 基本テーマ（都市像）のキーワード候補

アンケート結果や市民会議における意見から抽出されるキーワードの例として、次のようなものが挙げられます。

「仕事」「健康・安心」「暮らしやすさ」「支え合い」「希望」
「暮らし続けられるまち」「つながり」「教育」「活力」

なお、これらはアンケートから読み取れる方向性の一例であり、都市像の表現については、市民会議での議論を踏まえて幅広く検討していくこととします。

3 これまでの総合計画 基本テーマ（都市像）の流れ

計画	基本テーマ（都市像）
第1次総合計画	海と緑に囲まれた豊かな生活、活みなぎる生産、流通都市づくり
第2次総合計画	自然と調和する中で、ひとびとがよろこびいきがいを創造しうる都市
第3次総合計画	海と大地に未来を創造する都市 ～ロマン萌ゆるマリンポリス留萌～
第4次総合計画	ひと・まち、ゆめ・みなと 輝く留萌21
第5次総合計画	誇りと満足を目指す みなとまち留萌
第6次総合計画	みんなでつくる まち・ひと・きぼう 次の時代へ続く留萌

■ 過去都市像から見える要素

これまでの総合計画では、時代ごとに表現は変わりながらも、次の要素が重視されてきました。

要素	内容	用いられた計画（例）
海・みなと	留萌らしさを象徴する地域資源	第1次・第3次・第4次・第5次
自然・大地	海、緑、大地などの自然環境	第1次・第2次・第3次
生産・流通・産業	産業活動、港湾、地域経済	第1次
ひと・まち	市民、地域、暮らし	第4次・第6次
誇り・いきがい	地域への愛着、満足感	第2次・第5次
希望・未来	次世代へつなぐまちづくり	第3次・第6次
市民協働	みんなでつくるまち	第6次

◆ 整理にあたっての考え方

これらの要素は、これまでの計画で用いられてきた語彙の整理であり、次期計画で必ず用いるべきものではありません。

次期総合計画では、これまでの流れを参考としながらも、新たな視点や発想による表現も含めて幅広く検討することとし、市民会議での議論を通じて方向性を整理していきます。